

無線方位信号所（レーマークビーコン）の廃止について

海上保安庁では、沿岸域を航海する船舶の航行援助システムのひとつとして運用している無線方位信号所（レーマークビーコン）（以下「レーマーク」という。）を、平成19年度から平成21年度までの3ヶ年で、順次廃止することとしました。

各レーマークの廃止時期は、次頁の図に示すとおりです。

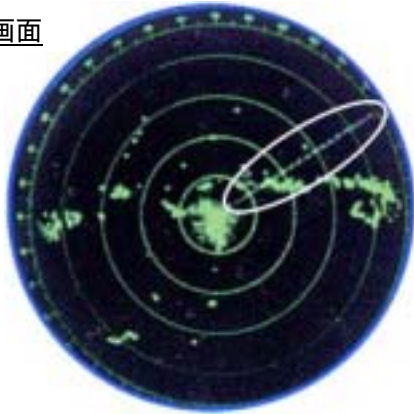
レーマークは、マイクロ波（Xバンド）の電波を発射し、船舶のレーダー画面に、自船の位置とレーマークとを結んだ方向を表示させ、レーマークの方向を分かりやすくさせるシステムです。

海上保安庁では、昭和36年（1961年）に、東京湾の入口に位置する観音埼灯台に、我が国初のレーマークを開設して以来、船用レーダーの普及に合わせて、日本全国の主要な灯台にレーマークを設置してきました。

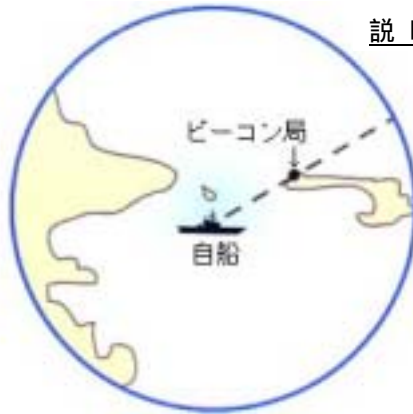
近年、沿岸域を航海するほとんどの船舶にGPSを利用した航行計器が搭載され、航海者は容易に自船の位置、針路を確認することが可能となりました。また、海上保安庁が運用するディファレンシャルGPSを利用することで、さらに精度及び信頼度を向上させることができます。

レーマークの機能は、これらのシステムで補完されることから、海上保安庁では、全てのレーマークを廃止することとしました。

レーダー画面



説明図



無線方位信号所（レーマークビーコン）廃止計画

無線方位信号所（レーマークビーコン）は、平成19年度から平成21年度までの3ヶ年で廃止します。

廃止日は各年度の4月10日

Ramark-beacon stations will be closed in 3 years from FY2007 to FY2009.
The closing day is April 10, each year.

- 9局 : 19年度廃止箇所 (closing in FY2007)
- 21局 : 20年度廃止箇所 (closing in FY2008)
- 11局 : 21年度廃止箇所 (closing in FY2009)

